

周南地区で「竹林整備実践活動」を実施しました！

令和6年12月6日（金）、周南地区林業研究グループ連絡協議会（以下「周南地区林研」）の主催により、下松市東陽団地に隣接した竹林において、「竹林整備実践活動」を実施しました。

この取組は、周南地区林研の自主活動の一環として開催しているもので、今年度は「タケノコ生産に向けた竹林管理」をテーマに、会員15名が参加の下、講義・実習が行われました。

活動では、最初に「放置状態の竹林と管理された竹林の違い」や「タケノコ生産に向けた竹林管理」等について事務局より説明を行い、その後、竹林管理の実習に移りました。

活動を行った現地は、下松市林業研究会が整備を進めている竹林で、約百㎡の区域に大まかな竹の年令で4つに区分されています。実習では、4グループの会員が2つの班に分かれ、設定された区域の百本を超える竹を30本に残す選木作業を行った後、連携して伐採作業に取り組みました。

今回、全ての作業を終えることはできませんでしたが、この続きや今後の継続した管理については、同市林業研究会にバトンタッチしました。参加した会員は、このたびの活動を通じて、タケノコ生産に向けた竹林の仕立て方の初歩を学び、大変参考になったとの声もあり、今後、自家山林や地域の竹林整備に活かしていただければと思います。

なお、周南地区林研では、今後も会員同士の交流や技術研鑽を図るため、各種取組を進めることとしています。



選木作業の様子



整備後の記念写真